

富山農林振興センター 普及情報

HP アドレス <http://www.pref.toyama.jp/sangyou/nourinsuisan/nourinshinkou/index.html>



二次元コード

第 89 号 (令和 6 年 7 月)

富山農林振興センター諏訪川原庁舎
〒930-0088 富山市諏訪川原 1-3-22

TEL :
企画振興課 444-4475 (総合庁舎内)
担い手支援課 444-4521 , 444-4523
農業普及課 444-8117 , 444-8125
444-0410 , 444-0413

FAX :
444-4518 (企)、444-4516 (担・農)



畦間かん水実施中の大豆ほ場 (P 3 に本文)



加工用トマトの定植作業(左)と定植 1 ヶ月後のほ場(右)
(P 4 に本文)



富山駅構内での切り花シャクヤク販売イベント
(Weekend Flower/Floral Marche : P 5 に本文)



鳥獣害防止のための侵入防止柵設置 (P 6 に本文)

目 次

- 令和 6 年産コシヒカリの栽培管理のポイント 2 ページ
- 高温耐性品種の作付で安定した高品質米の生産 3 ページ
- 莢数・子実数を確保して大豆の収量・品質を向上! 3 ページ
- 農地整備事業実施地区における高収益作物の定着・拡大について 4 ページ
- JA あおばにおける「切り花シャクヤク」生産の紹介 5 ページ
- 鳥獣被害防止対策の取組み 6 ページ
- 労働安全衛生に関する教育を実施しましょう 7 ページ
- 「とやまみどり認定」を受けましょう 7 ページ
- 農地を守り続けるために ~新規就農者紹介③~ 8 ページ
- とやま農業未来カレッジ・オープンキャンパスのご案内 8 ページ

令和6年産コシヒカリの栽培管理のポイント

令和5年産は猛暑の影響で、登熟期の高温に弱いコシヒカリでは白未熟粒が多発し1等米比率が低下しました。

令和6年産コシヒカリは、追加穂肥施用による適正な穂揃期葉色への誘導と幼穂形成期以降のこまめな水管理等により稲体の活力を維持し品質向上を目指しましょう。

1 追加穂肥施用により穂揃期葉色を4.2～4.5、砂壤土では、4.5に誘導

登熟期間の葉色が淡いと稲体活力が低下しやすく、白未熟が多発し品質が低下します。出穂7日前（1週間前）の葉色が4.0（SPAD値32）、砂壤土では、4.2（SPAD値34）以下の場合、出穂3日前までに追加穂肥を施用しましょう（図）。

特に幼穂形成期頃からの気温が高く、高日射条件の場合は、水稻の葉色値が上がりにくいので、追加穂肥の施用が必要となります。

農林振興センターでは流し込み肥料やドローンの利用など追肥作業の軽労化技術の実証を行うこととしています。

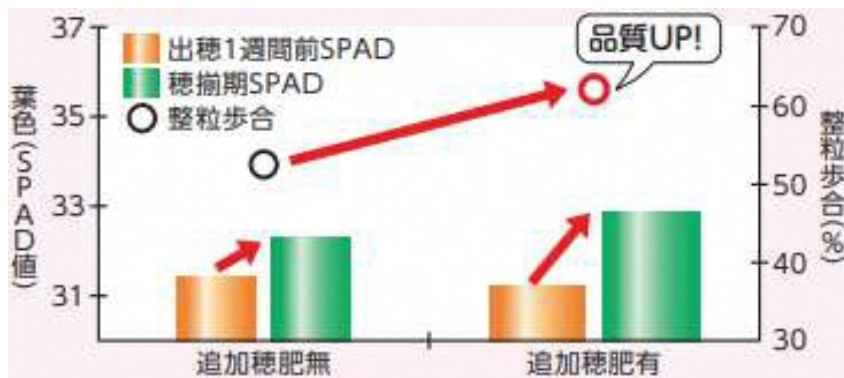


図 追加穂肥施用による穂揃期葉色 (SPAD 値) 及び整粒歩合の向上



2 こまめな水管理で登熟期間の稲体活力を維持

幼穂形成期以降は、飽水管理（足跡の水を切らさない湿潤状態を保つ：写真2）を行きましょう。

出穂から20日間は、登熟後半までの稲体活力の維持のため、確実に湛水状態（水深2～3cm程度）を保ちましょう。その後、刈取り5～7日前までは間断かん水を行い、適正な土壤水分の保持に努めましょう。



田面が出ない程度に湛水

この状態になったら入水

足跡に水がなくなる前に入水

写真2 飽水管理の方法

（農業普及課）

高温耐性品種の作付で安定した高品質米の生産

近年、出穂後の高温により、コシヒカリなどで白未熟粒の発生が多くみられます。今後も、昨年のような出穂後 20 日間の平均気温が 30℃以上となる超高温登熟条件になる可能性があります。

高温耐性品種の「てんたかく」「富富富」「てんこもり」の作付割合を増やし、高品質米を安定して生産しましょう。

(農業普及課)



図 富富富

莢数・子実数を確保して大豆の収量・品質を向上！

1 莢数・子実数が不足する主な要因と対策（まとめ）

発生要因	対策
開花期以降の高温・干ばつ →落花・落莢により、 稔実莢数不足、子実肥大停止	開花期以降に 晴天が続いたら 畦間かん水を実施
カメムシ類による加害 →子実肥大停止	基本防除の徹底 (必要であれば追加防除)



図 1 かん水が不十分で葉がしおれたほ場

2 畦間かん水

(1) かん水方法

大豆の開花期から子実肥大中期は最も水を必要とする時期です。7月中旬から9月上旬頃まで晴天が3日以上続くと見込まれる場合は、葉がしおれる前に畦間かん水を行いましょう（図1）。

かん水は短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら、水口をしっかりと止めて、速やかに排水しましょう。

(2) かん水の効果

根粒は干ばつに弱く、土壌が乾燥すると活性が低下します。かん水により適度な土壌水分を保ちましょう。

しおれを回避することで、落花・落莢を防止し、稔実莢数や百粒重が増加し、しわ粒の発生も軽減します。また、莢数の確保により青立ちの防止につながります（図2）。

しおれあり しおれなし



図 2 しおれの有無による成熟状況の違い

3 カメムシ類などの防除

(1) 基本防除の徹底

大豆を加害する主なカメムシ類は「ホソヘリカメムシ」や「イチモンジカメムシ」などの大型カメムシです（図3）。莢伸長期に加害されると落莢、子実肥大期に加害にされると子実肥大停止（図3）し、青立ち株の発生につながりますので、適切に防除しましょう。

【防除時期】 1回目：8月中旬頃（莢伸長期）、2回目：8月下旬頃（子実肥大期）

(2) 追加防除の目安

山際等のカメムシ多発生ほ場では、発生状況に応じて追加防除を行いましょう。

(農業普及課)



図 3 大豆を加害するカメムシ類と被害
(上：ホソヘリカメムシ、下：イチモンジカメムシ)

農地整備事業実施地区における高収益作物の定着・拡大について

1 農地整備事業実施地区における地域営農体制の確立チームの設置

当センターでは、農地整備事業の効率的な実施と地域営農の支援体制を整備するため、令和3年11月に「農地整備事業実施地区における地域営農体制の確立チーム」を設置しました。チームでは、①農地整備事業の実施、②担い手経営体への農地集積、③高収益作物の導入等を着実に進めるため、進捗状況や課題を検討し、関係機関や事業実施地区との情報共有を図っています。

2 各地区における高収益作物定着・拡大の取組み

高収益作物を導入する地区において、ほ場や気象条件に応じた高品質・高単収栽培の定着化を加速させるため、栽培講習会の開催や生育調査に基づく病虫害防除指導、スマート機械の実証による規模拡大支援、優良事例研修などを行っています。

(1) 富山市水橋地区（園芸導入促進チームの設置と栽培実証）

- ・園芸作物の生産を行うモデル経営体を選定し、生産・振興上の課題について関係者が一体となった支援を行うため令和5年に「水橋園芸導入促進チーム」を設置し、関係機関で情報共有を図っています。
- ・また、担い手への園芸作物の導入推進を図るため、地区内の経営体への個別訪問、地域営農ワークショップの開催等、園芸導入啓発を行っています。
- ・令和6年は、国営整備後ほ場1.5ha（水橋狐塚）で、モデル経営体による加工用トマト及びさつまいもの機械化一貫体系の確立に向けた栽培実証ほを設置し、5月31日に開催された野菜導入推進研修会において多数の関係者・生産者の関心を集めました（写真1）。



写真1 野菜導入推進研修会における現地研修（R6.5.31開催）

(2) 富山市中沖地区・町袋地区（「たまねぎ」の定着・拡大）

- ・夏期湛水によるべと病対策の実証、生育調査に基づく病虫害防除・収穫指導、省力機械活用による規模拡大支援（写真2）を行っています。



写真2 たまねぎの収穫作業（根切り機を活用）

(3) 富山市黒瀬谷地区（「にんじん」の定着・拡大）

- ・発芽・苗立ち率確保のためのかん水や、作業チェックシートに基づく栽培管理指導、規模拡大に向けた省力機械導入支援を行っています。

(4) 上市町相ノ木中部南地区（「たまねぎ」の定着・拡大）

- ・収穫作業の効率化を図るための省力機械導入支援、栽培マニュアルに基づいた適切な管理指導を行っています。

(5) 立山町田添地区（「さといも」の省力化実証）

- ・ドローンによる防除の省力化技術実証を行っています。

（担い手支援課 園芸振興班）

JAあおばにおける「切り花シャクヤク」生産の紹介

1 切り花シャクヤクの特徴

JAあおばでは、「切り花シャクヤク」の生産が推進されています。

シャクヤクは宿根草で、定植後、切り花収穫までに約4年間の生育期間が必要となります。一方、鳥獣被害が無いこと、株が成熟すると数年～十数年間は植替えせずに切り花収穫が可能となること、定植時に畝マルチと防草シートを敷設することで除草等の管理が省力的に行えること、などから、女性や高齢者も取り組みやすいのが特徴です（表）。

表 切り花シャクヤクの栽培暦

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
1年目		追肥		追肥			追肥	△定植	
2～3年目		摘蕾							刈込
4年目～		摘蕾	収穫						刈込

2 JAあおばの「切り花シャクヤク」ブランド化に向けた取組み

(1) 他産地にはない豊富な品種構成

県薬用植物指導センターや種苗会社、県外産地から花色や開花時期の異なる品種を導入し（写真1）、現在ではJAあおば花き出荷組合員約50名が、150種以上の多彩な品種を作付けしています。

(2) 促成栽培による出荷期間の拡大

簡易ハウス（写真2）やトンネル被覆の導入により、本来は5月上旬から下旬の出荷期間を1～2週間前進することで、母の日の需要を狙った優位販売・PR（表紙写真）を行っています。

収穫期の前進により、作業の集中する収穫調製の労力分散や販売単価の向上効果も期待できます。

(3) 県内外市場との意見交換によるニーズ調査

出荷直前の4月には県内外5市場を産地へ招き出荷規格やニーズ等の情報収集と要望に対応した出荷に努めることで、実需者から高い評価を得ています。

令和6年度は、前年より1.5万本多い約14万本を県内外9市場へ出荷しました（図）。

農林振興センターでは、今後、規模拡大に伴う出荷体制強化支援を行い、更なる産地の規模拡大への対応・ブランド力強化を推進したいと考えています。



写真1 栽培品種一覧



写真2 簡易ハウス

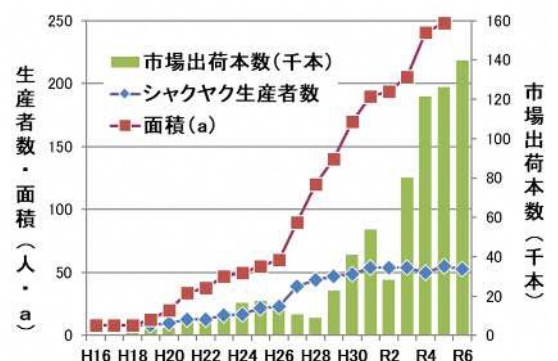


図 切り花シャクヤク生産の推移

(担い手支援課 園芸振興班)

鳥獣被害防止対策の取組み

電気柵等の侵入防止柵を適正に設置・管理して、農作物被害を軽減しましょう。

1 侵入防止柵の設置と管理

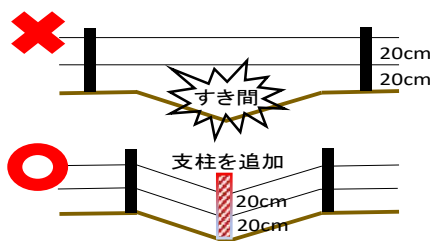
8月1日の前後1週間で、侵入防止柵を集落ぐるみで点検しましょう！

(1) 電気柵のチェックポイント

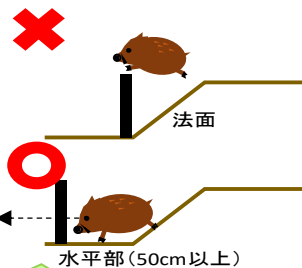
チェック

・電圧が4,000~8,000Vで通電しているか。 (同じ箇所でも前回測定時よりも電圧が低下していないか。)	<input type="checkbox"/>
・支柱が地面にしっかり設置されているか。 (抜けていないか、倒れていないか、破損がないか。)	<input type="checkbox"/>
・1段目の電線の高さが地面から20cm、1段目と2段目の電線の間隔が20cmで張られているか。(電線の下が掘られてすき間がないか。)	<input type="checkbox"/>
・簡易ゲートや防草シートが破損していないか。	<input type="checkbox"/>
・イノシシ侵入側に土の水平部が50cm以上確保されているか。	<input type="checkbox"/>
・電線が支柱の外側(イノシシ侵入側)に張られているか。 (ガイシやクリップの向きが外側(イノシシ侵入側)※になっているか。)	<input type="checkbox"/>
・24時間通電となっているか。(夜間のみの通電となっていないか。)	<input type="checkbox"/>

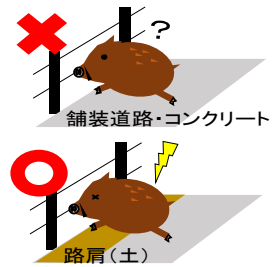
※メーカーにより内側の場合もあります。



すき間がある場合は、支柱を増やし電線の間隔を守る。



イノシシの目線から柵が見えるよう平坦な場所に設置する。



通電効果を高めるためにイノシシの足が土に触れる位置に設置する。

(2) 恒久柵(金網柵・ワイヤーメッシュ柵等)のチェックポイント

チェック

・柵が破損していないか、破られていないか。	<input type="checkbox"/>
・周辺の草刈りは行われているか。 (柵に草等がからみついているか、緩衝帯を維持管理しているか。)	<input type="checkbox"/>
・イノシシが潜り込まないように、柵の裾部がしっかり固定されているか。 (柵の裾部に穴が掘られていないか。)	<input type="checkbox"/>



電気柵の設置



電気柵の管理



電気柵の撤去



恒久柵の設置・管理

正しい設置や管理方法をYouTubeで配信しています。

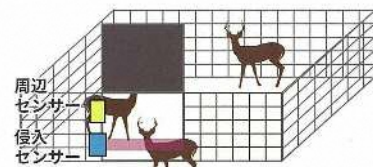
2 ICT機器を活用したニホンジカ捕獲現地試験の紹介

R6年度新規事業として、「ICT 囲いわな等によるニホンジカ捕獲実証事業」を富山市有害鳥獣対策協議会に協力をいただき、富山市山田谷地区において実施します。

本事業は囲いわなのセンサーによる自動捕獲や自動通報(右図①、②)のICT機器を設置した捕獲の実証に合わせ、誘引餌等による効率的な捕獲対策を実証し、現地研修会を通じて、今後県内での普及を図っていきます。

【ICT 囲いわな等によるニホンジカ捕獲実証のイメージ】

① センサーによる自動捕獲



② 捕獲後のスマホへの自動通報



子機

親機

労働安全衛生に関する教育を実施しましょう

1 農業者雇入れ時の安全衛生教育

労働安全衛生法第59条第1項では、「事業者は労働者を雇い入れたときは、当該労働者に対し、厚生労働省令で定めるところにより、その従事する業務に関する安全又は衛生のための教育を行わなければならない」とこととされています。

農業を含む一部業種においては、雇入れ時の労働安全教育の実施にあたり、機械の取り扱い方法等の一部項目を省略できると規定されていましたが、今般、この省略規定が廃止され、令和6年4月1日から全業種で義務化されました。

2 義務付けられた主な教育内容について

- 機械等、原材料等の危険性又は有害性及びこれらの取扱方法に関すること。
- 安全装置、有害物抑制装置又は保護具の性能及びこれらの取扱方法に関すること。
- 当該業務に関して発生するおそれのある疾病の原因及び予防に関すること。
- 作業手順に関すること。
- 作業開始時の点検に関すること。
- 整理、整頓及び清潔の保持に関すること。
- 事故時等における応急措置及び退避に関すること。



3 参考資料

農林水産省では教育用のリーフレット、事業者向けテキストを準備しています。右記二次元コードをスマホなどで読み取り、掲載されている教材を活用して雇入れ時の安全衛生教育を実施しましょう。(担い手支援課 経営支援班)



「とやまみどり認定」を受けましょう

1 「とやまみどり認定」とは

旧エコファーマー制度に代わり、国の「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた法制度（みどりの食料システム法）に基づいて、環境負荷低減に向けた生産者や地域の取り組みを支援・促進するため、県が認定する制度です。

2 認定を受けるメリット

- 設備投資の際の税制優遇が受けられます。
- さまざまな国庫補助金の採択で優遇されます。
- 日本政策金融公庫の無利子融資等が活用できます。
- 土づくり、化学肥料・化学農薬の低減に取り組む方(有機農業等を含む)は、エコファーマーの愛称とマークを使用できます(旧エコファーマー制度と同じ取扱い)。



3 申請手続き

認定申請書と5年後の目標や、活動内容、実施体制などを記した実施計画書、直近の土壌診断結果を添付し、農林振興センターへ提出してください。

また、エコファーマーの認定を受けている方には、認定が終了する年度に更新案内を郵送いたします。申請受付期間は当該年度の10月1日から1月31日までです。申請手続きに関してご不明な点がございましたら、農林振興センター担い手支援課へお問い合わせください。(担い手支援課 経営支援班)

農地を守り続けるために

～新規就農者紹介③～

古田雄大さん(富山市)

1 就農までの経緯

上熊野地区で水稲を中心に約9haの農業を経営する古田雄大さん(35歳)。大学卒業後は民間企業で営業経験を積んだのち、親元就農。実家の農業と並行しながら約3年間農業法人で研修し、水稲のほか露地・施設園芸など幅広い技術・知識を習得。令和3年に父親から農業を引き継ぎ、自らの経営をスタートさせました。



写真 古田雄大さん

2 就農後の挑戦

地元の農地を守り続けるという志を胸に経営内容を転換。高収入が見込める水稲種子の生産に、新たに取り組んでいます。県外へも出荷される水稲種子の生産は、病虫害防除の徹底やこまめな異茎株の抜き取りなど大きな負担と責任が伴いますが研修時代の経験を活かし丁寧なほ場管理に努めています。また、更なる規模拡大も見据え、ドローンの導入による作業の効率化も図っています。高齢化が進むなか、種子生産農家として、地域の担い手として、周囲から大きな期待が寄せられています。(農業普及課 富山北部班)

とやま農業未来カレッジ・オープンキャンパスのご案内

富山県農業の未来を担う人材を育成する

とやま農業未来カレッジ オープンキャンパス開催!

日時 2024年7月21日(日) 9:30~11:40
会場 とやま農業未来カレッジ 月岡キャンパス
(富山市月岡新296番地)

「とやま農業未来カレッジ」では、県内で就農を希望する方を対象に1年制の研修を実施しています。来年からは2年目研修として園芸経営実践コースの開講も予定しています。
農業に興味のある高校生・大学生や保護者、一般の皆さん!
当カレッジを体感できるオープンキャンパスに参加しませんか!

9:00~受付
9:30~研修概要・令和7年度入学生募集の説明
10:00~模擬講義「出荷野菜のための基礎知識」
11:10~施設見学・野菜収穫体験
11:40 解散・個別面談(希望者のみ)

当日は、実習のできる服装、筆記用具、雨傘、長靴、帽子、軍手、飲料水を持参してください。

募集対象 就農を希望する高校生とその保護者、大学生、一般
申込締切 2024年7月12日(金)まで
申込方法 電話、FAX、メールまたはWeb(下記二次元バーコード)から。FAX、メールの場合は、氏名・住所・電話番号・所属(学校・会社等)・同行者氏名をご記入ください。

お申し込み専用フォーム

お問い合わせ 公益社団法人富山県農林水産公社
とやま農業未来カレッジ
〒939-8139 富山市月岡新296番地
TEL:076-461-3180 FAX:076-461-3185
E-mail nouyou-college@taff.or.jp https://taff.or.jp/nou/college

参加無料